

3年部学年通信「伐株山」

玖珠美山高等学校 3年部 学年通信・第5号 11月5日発行

10月半ばになってかなり秋めいてきました。季節の変わり目は、気温の変化などのため体調を崩しやすい時期でもあります。また秋は、「勉強の秋」などと言われます。体調管理に気をつけて、進路実現に向けて日々の勉強に頑張ってくださいと思います。

「努力できることが才能である」(松井秀喜)

みなさんは、**松井秀喜**さんを知っていますか？1990年代から2000年代の野球界を代表する長距離打者で、日本プロ野球時代は読売ジャイアンツ、メジャーリーグではニューヨーク・ヤンキースなどで活躍した選手です。野球ファンなら誰もが知っている選手だと思います。2013年には**国民栄誉賞**を長嶋茂雄さんと同時に受賞しました。愛称「ゴジラ」として、日米の野球ファンに親しまれました。



この「**努力できることが才能である**」という言葉は、松井秀喜さんを子どもの頃から支えてくれた言葉なのです。小学校3年生の頃、父親が半紙に毛筆で書いて渡してくれたそうです。この言葉について、彼は著書「**不動心**」の中で次のように述べています。

僕は決して「野球センスにあふれる」というタイプではありません。両親からもらった丈夫で大きな体は、いくら感謝しても足りないぐらいです。しかし、何をやってもすぐに修得できるという天才型ではありませんでした。むしろ、人よりも進歩は遅かったように思います。子どもの頃だと、努力しないで出来るほうが格好よく見えますよね。汗をかかずに楽々とやってのけたいという思いがあります。でも、僕にはそれができませんでした。努力しなければ、人並みにもなれないタイプでした。そんなときに支えてくれた言葉でした。「**努力できることが才能である**。」試合に負けて、打てずに悔しいとき、素振りをしながら、父が書いてくれた紙を見つめました。**この言葉が僕の希望でした。**

プロ入りして実家を出るまで三度、部屋が変わりましたが、この紙だけは大切にはがして、新しい部屋に貼った記憶があります。大リーグには才能あふれるプレーヤーがたくさんいます。その中に入って、あらためて思っています。**どんな世界であれ、努力せずに成功した人などいないのではないのでしょうか。**

日本やメジャーリーグで活躍し、数々の記録を残した松井秀喜さんですが、その活躍の陰にはこのような**努力**する姿勢があったのです。

ところで松井さんは、小学3年からは町の少年柔道教室にも通い始めたそうです。そして能美郡大会で優勝、石川県大会では3位に入り、国体強化選手にも選ばれていたという逸話もあります。中学卒業後は、地元である石川県の星陵高校に進学しました。この高校時代に彼は多くの伝説を残します。中でも、多くの人々の記憶に残っている出来事は、彼が高校3年生のとき出場した、夏の甲子園2回戦での明德義塾高校との試合ではないでしょうか。なんとこの試合で、松井秀喜さんは**5打席連続敬遠**という前代未聞の記録(?)を残したのです。この試合で彼が受けた5打席連続敬遠は、高野連が急遽記者会見を開くなど、社会問題にまで発展しました。ちなみに明德義塾高校監督の馬淵史郎さんは試合後、「(星陵の練習を見て) 高校生の中に一人だけプロの選手が混じっていた」とコメントしています。



ところで、星陵高校の一塁側ベンチや室内練習場には、次のような言葉が掲げられていたそうです。

**心が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる
人格が変われば運命が変わる**

3年生のみなさんは、この言葉をどのように感じますか？ 今までに何度か目にしたことがある人もいると思います。自分が変われば運命も変えられる。そう思えば、とことん努力をしてみるのもいいのではないのでしょうか。3年生のみなさん、進路実現に向けてともに頑張っていきましょう。

<今後の行事予定>

- 1月15日(金): 強歩大会
- 1月20日(水): 後期生徒総会
- 1月26日(火)~1月29日(金): 期末考査
- 2月19日(木): 美山マルシェ
- 2月20日(金): クラスマッチ
- 2月24日(火): 終業式

**挑
戦**

**努
力**